



法の光 (法光山 妙勝寺 通信) No.223

2018年(平成30年) 7月 1日発行

文責 大岩 清人

—妙勝寺本堂 木鼻—
きばな

法師功德品第19 その1

随喜功德品では「法華經」を信じる喜びが説かれました。

この品では、『法華經』の教えを説きひろめる人の功德がこの品で説かれます。法師とは専門の僧ではなく、『法華經』の教えをひろめる人をいうのです。

「男おとこであれ女めづであれ、この法華經を受持し、もしくは読み、もしくは誦し、もしくは解説し、もしくは書写するならば、その人は眼に八百の功德を得るでしょう。耳には千二百、鼻には八百、舌には千二百、身には八百の功德があり、その意には千二百の功德があるでしょう。その功德により眼・耳・鼻・舌・身・意の六根は莊嚴じゆうげんにして清浄じゆじゆとなるでしょう。」とはじまはじまります。

法華經を受持・読・誦・解説・書写の五種の修行をする法師(五種法師)には「六根清浄」の功德が備わるのです。六根は、眼・耳・鼻・舌・身・意の六感を言います。前の五種の修行を積めば六根が清浄になるのです。

釈尊しやくそんは彌勒菩薩みらくぼさつにかわって常精進菩薩じやうしゆじんぼさつに説かれるのです。

まず六根の眼根がんこんについて「肉眼が精進しゆじんによって清らかになる。宇宙のあらゆる物が見え、無間地獄むげんじごくから有頂天うちやうてん(天界の一番上)に至るまで見る事が出来る。その中に住む生物がどの様な生き方をし、彼らの過去の業の因縁や結果・報い、生まれた境遇などすべて見る事が出来る。」

無間地獄から有頂天(天界の一番上)に至るまでと言う表現はインドで使われる表現です。「迷っている人間世界」つまり娑婆世界をあらわします。この意味するところは、五種修行を積めば、自分中心の物の見方が取れ、今まで見えなかった物が見えてくるということです。客観的に見られるということなのです。

次に、耳根について説かれます。

「世の中のありとあらゆる声や音を聞くことが出来るのです。喜びの声や笑い声や、苦しきうめく声や泣き叫ぶ声や、動物の声や、清らかな歌声や太鼓の音や、ありとあらゆるものを聞き分けて、洞察するでしょう。」

身びいき・身勝手な聞き方をするのではなく客観的に聞くことが出来る様になるのです。エゴによって“聞いて聞かず”“聞いても聞こえず”だったのが、エゴかたよが取れすべてが聞こえるようになるのです。私たちは先入観や偏見かたよといった偏った見方をすることがあります。無知から来ることもあります。人のうわさを真に受けたりして、余計に判断を狂わせ、迷い悩むこともあるのです。

鮎放流

5月26日は揖保川の鮎の解禁日。同じ日に鮎を放流された方がいる。鮎釣りが高じて余生を楽しもうと夫婦で、大阪から宍粟市に移住されたのだが、4月上旬に宍粟市で大きな交通事故があり、主人がお亡くなりになった。日蓮宗ということで当山に葬儀の依頼があった。突然の旅立ちに奥

さんは哀しみと辛さの中、^{ふたなの}か、^か気丈に送られた。二七日にお参りした時、「事故の場所が家から近く、辛いので大阪の娘の所に行こうと思います。すみませんが七日参りはお寺でお願いします。」

大阪へ行かれる前にお寺に遺骨と位牌を預けられた。(諸事情から預かることにした。)その時に、四十九日の法要が鮎の解禁日の次の日であることから、「もし前日にこちらに戻られるなら、おとり鮎を供養に放流されたらどうでしょうか」とお話した。「それは良いですね。釣り仲間の人に話して放流します。」だった。

四十九日法要の日に「昨日放流しました。主人の供養になりました。良かったです。その時の写真です。」と手渡された。



手炒りの天津甘栗

名古屋に用事があって一晩泊まりで行った。その夜、長男と食事をして繁華街を歩いていると甘栗を炒る露店を発見。近づくとおじいさんが大きな鉄の棒で栗をかき回している。まさに手炒りである。

大きな鉄鍋をのぞき込むと、小さな石粒の中で栗が香ばしい匂い^{かも}を醸している。時々ポーンと音を立ててはじけていたりする。「水飴は入れてないで。つや出しや甘みを付けるけど水飴がこびりつくし大変。自然の栗の甘みや。あと20分はかかるな～」と話しながら重い鉄の棒で混ぜ続けている。「あと20分。ぶらついてくるわ」とネオンサインを見ながらぶらついた。30分ほど歩いたのだろうか。おじいさんの所に戻ると作業は終わり、袋詰めされている。

栗好きにとっては買うしかない。次の日に久しぶりに美味しい天津甘栗を食べた。最近、その場で炒る露店が減った。袋詰めされた日持ちするのは売られているが、やたらとねばねばとしていて水分が多すぎる。香ばしい香りを漂わせ、せつせとかき混ぜる姿は夜の繁華街で風情があった。こんな光景がいつまでもあって欲しい。

縁は異なるもの

「袖振り合うも多生の縁」ということわざがあります。袖がふれ合うという偶然も前世の縁だという意味です。多生とは前世をいいます。

しかし、良い縁ばかりではなく、良くない縁もあります。良い縁を順縁、良くない縁を逆縁といいます。

新幹線で無残な事件が起きました。22才の男が隣の席に座っていた女性に切りつけ、通路を挟んで座っていた女性にも切りつけ、女性を護ろうとした男性にも切りつけ致命傷を与え、殺害するという悪鬼の仕業としかいいようのない事件でした。

自己中心的で、自分の衝動や欲望で行動する人の仕業です。衝動や欲望は本能的なものです。私たちは本能の動きを制御することの大切さを社会生活の中で培うのです。つまり自己コントロールという後天的な学びが大切なのです。衝動や欲望で動く人が増えているとしたら、成長過程や社会生活に落とし穴が大きくなっているのでしょう。

「袖振り合うも多生の縁」という言葉には、人との縁は不思議なもので、どこでどの様なつながりがあるかわからないので大切にしてください・・・という意味もあります。地縁・血縁といった縁を大切にしていた時代の言葉です。

「地震です。」 大阪北部地震

6月18日朝8時前にスマホの緊急地震速報でビックリ。続いて宍粟市の各家に設置されたシーたん放送のけたたましい緊急地震速報が何度となく鳴ったのでおたまたまげた。どれだけ大きな地震が来るのだろうかという身構えと緊急地震速報の音の大きさに恐怖を感じていた。その最中に突き上げるように揺れた。体感としてはさほどの揺れではなかった(震度3)。お寺の被害はありませんでしたのでご安心下さい。檀信徒の皆様の中で被害に遭われた方には、心よりお見舞い申し上げます。



上:6月11日の虹 下:沙羅双樹の花



夏になりました。いよいよお盆が迫って参りました。7月は東京のお盆、東京以外は8月の月遅れのお盆です。

本年度の棚経お参りの予定をお知らせします。

尚、急な法務(お葬式等)で日程変更をお願いする場合がありますことをご了承下さい。

7月 13日	(金)	杉並区
7月 14日	(土)	世田谷区・日野市
7月 15日	(日)	八王子市
7月 29日	(日)	阪神間の日曜日希望のお家
7月 31日	(火)	枚方市・茨木市・尼崎市・伊丹市
8月 1日	(水)	大阪市西区・都島区・旭区・守口市・大東市
2日	(木)	平野区・羽曳野市・堺市・大阪狭山市・西宮市・東灘区
3日	(土)	長田区・垂水区・須磨区・西区・明石市
5日	(日)	たつの市・姫路市西部・安富町
6日	(月)	姫路市東部・姫路市市街地北部・夢前町
7日	(火)	宍粟市一宮町・波賀町
8日	(木)	山崎町蔦沢
10日	(土)	山崎町三津・五十波・田井・岸田・宇原
12日	(日)	山崎町春安・門前南部・段
13日	(月)	(午前)今宿・河東・中広瀬・千本屋 (夕方)旧町内
14日	(火)	旧町内
15日	(水)	旧町内
17日	(金)	お盆施餓鬼法要

お盆・施餓鬼法要のご案内・塔婆申し込み

塔婆は同封のハガキにてお申し込み下さい。棚経との関係で早めにお申し込みいただければ、塔婆墨書きが出来ますので宜しくお願いします。

7月の日程

7月13日～15日の山崎町月参りは、東京棚経につき休ませて頂きます。

7月14日(土)	14:00より	和讃の会	本堂にて
7月16日(月)	14:00より	戦没者慰霊法要	本堂にて